

< 川越市 >

「疑惑の中野英幸県議…！！」

送検県議2名…沢田力元県議・伊藤雅俊県議

もはや自民党埼玉県議団は腐敗の牙城だ！

本紙が追及する、中野英幸埼玉県議による政務活動費の不正支出疑惑について静観するに等しい自民党埼玉県議団だが、偽造領収書による政活費不正受給で先に書類送検された沢田力元県議に続いて、今度は伊藤雅俊県議が元交際相手の既婚女性に対するストーカー行為で書類送検された。伊藤県議は県議会の警察危機管理防災委員でもあったというから、二重三重に呆れ果てると同時に、市民の静かな怒りの炎は政務活動費の不正にも増して何倍にも燃え上がっている。

議員の自覚も倫理も職責はおろか一般社会人としての常識さえ欠落する若手議員らの度重なる犯罪容疑と過失を目の前にしながら、小島信昭団長以下、自民党埼玉県議団には相変わらずの「手ぬるい」対応しか見受けられない。

ストーカー容疑の伊藤県議に至っては「急性一過性精神病性障害」と診断されて1カ月の静養を要するとの釈明で逃げ隠れするばかりだ。

医師の診断書があれば、なんでも通ると思っているだろうか。

そもそも議員たる者は、常人では乗り切れないような困難さえも克服する精神力と指導力、問題解決の能力を備えた人間でなければならないはずだ。まして伊藤県議は警察危機管理防災委員だ。

自分が引き起こしたとされる犯罪容疑で書類送検され、容疑を認めながら謝罪会見さえ開けないとは笑止千万。語弊はあるが、急性一過性精神病性障害とは、いわば平常心が保てないという比較的軽度の症例とい

って過言ではない。医師法上、診断書の地位は軽くはないが、一方でこの種の診断は症状を訴える患者のヒアリングによるところが大きい。

本人が「とても平常でいられません」と言えば、「静養の必要あり」と書いてもらえるようなものでもある。

ただでさえ、都合が悪くなった政治家の療養や入院は、日本政界のお家芸とさえ言って良く、ストーカー被害者女性の心的外傷に比べれば、加害容疑で書類送検された伊藤県議には公式な謝罪と説明責任が問われる。もっとも、元交際相手の女性に病的なストーカー行為を継続していた伊藤県議は実際に「病気」であっても可笑しくない。

但し、二度と政治家面をさせてはならない。

破邪顕正（はじゃけんしょう）の剣は有権者にあり！

しかし、県議団はどうか？

記憶に新しい沢田元県議は、偽造領収書で政務活動費を不正受給する卑しき極まる犯罪に手を染め書類送検され、いまだに公式な謝罪表明もないが、県議団は事実上の放任状態。そして同類の政活費不正受給疑惑の渦中にある中野英幸県議に対しても、なんら厳しい態度もとらないまま保留状態にあり、更には伊藤県議の本件書類送検である。

ここまでの不法行為、醜態の送検、疑惑を招来する議員らを、黙認同然、あるいは人ごとのように形式的なコメントを述べるに留まる自民党埼玉県議団に、いったいなんの存在価値があるのか。

現状では、県議団自ら「自民党はこの程度の者でも議員として守りますよ」と、自浄どころか党内腐敗推進を謳っているようなものである。

あるいは、県議団は地方自治体に温存される自民党県議としての「既得権を相互扶助しているつもりか…これが組織防衛だと解釈しているのか」有権者の信任を平然と裏切り、県税に寄生する年若い不正議員らに対して厳しい処断を下せないでいる。

腐敗しきった県議団は、選挙の時だけ市民のほうに顔を向けながら、当選すればあとは背中を丸めて私利を貪るだけの卑小な口舌の徒でしかない。

小島県議団長は、書類送検議員を連発するという県民への裏切り、自民党県議団史上においても最悪の恥辱に塗れた現状においてさえ、まるで議会資料の誤字が見つかった程度のような形骸化したコメントを、なんの危機感もなく述べるだけで、団長にして政治家としての資質も度量もない。まさに「この親にしてこの子あり」だ。

このような、政治家を演じるだけの悪徳県議の烏合の衆・自民党埼玉県議団を市民社会から排撃し得るのは、投票という破邪顕正の剣を握る有権者諸氏だけである。

彼ら県議団も選挙だけは、有権者向けの演技に熱を入れ任期続投を懇願する。だが考えて見てほしい。いまそこにある不正、いまでも昼寝を続ける腐敗を排除する処断も下せない自民党埼玉県議団が、今後も県民のための県政に必要なのかどうかを…。

政治は民度と同質と言われる。政治家がダメだというとき、それを選出した市民もダメなのだ。腐敗した政治家は、二度と元には戻らない。

有権者は、なし崩しの地域性に流されて、ダメだとわかっている政治家に再び投票する愚かで怠惰なことをしてはならない。この社会は有権者が作らなければならない。有権者がその使命感と社会的義務を怠けるとき、悪徳政治家共は密かにニヤリと笑う。

国政も同じ状況に置かれて70年余が経つ。だが、地域や社会の改革を諦めてはいけない。不正を働く国賊議員を甘やかしてはならない。

我々は、悪徳が議会多数派を占領するような社会を徹底的に解体し、刷新しなければならない。未来ある子供たちには、次世代の社会に腐った遺産を渡してはならないのだから…。